



開港記念日  
7/15(土)

# 大阪港開港150年

みんなで創る大阪港の未来  
~伸ばそう港・はばたけ世界へ~



## 近畿2,100万人の生活を支える国際貿易港

大阪市の市章に昔の航路標識の「みおつくし」が採用されているように、港とともに繁栄してきた大阪。大阪港は「難波津」「住吉津」と呼ばれ、古代から朝鮮半島や中国など大陸との交通の重要な拠点でした。大阪市内を縦横に走る河川や運河は、豊臣・徳川の時代に整備され、その水運の便から、大阪は諸国物産の集散地として繁栄しました。

その後、徳川時代の鎖国が終わり、大阪港は海外

との貿易を再開。1868(慶応4)年7月15日に近代港湾として開港して以来、日本屈指の国際貿易港として発展してきました。

現在では、世界約150の国と地域、約600の港と結ばれています。中でも東南アジア、中国などのアジア諸港とは密接な海上輸送網を有し、約2,100万人の人口を抱える近畿圏の市民生活を支える重要な役割を担っています。

HISTORY



### 大阪市章の由来は航路標識「みおつくし」

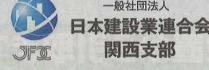
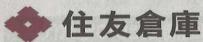
「難波津の 葦のかりねの ひよゆゑ みをつくしてや 恋ひたるべき」(『難波津歌別当 千載集より)。みおつくし(浮標)とは、古歌にも詠まれたように、それが昔難波津の洶瀬に立てられた航路標識です。大阪の繁栄は、港の充実と切っても切り離せません。人々に親しまれ、港にもゆかりの深い「みおつくし」が、1894(明治27)年4月、大阪市の市章となりました。



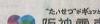
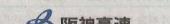
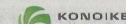
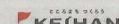
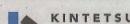
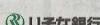
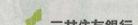
私たちちは大阪港開港150年記念事業を応援しています

大阪港開港150年記念事業パートナー

■プレミアムスポンサー・サプライヤー



■パートナー



一般財団法人大阪港福利厚生協会

一般社団法人グローバル人材育成推進機構

一般社団法人平林会

大阪港開港150年記念事業推進委員会

コネクション

カーネギー・ミセス・コンサルティング

舞洲スポーツアーランド

ATC

港湾環境整備センター

大阪歴史博物館

夢・みらい  
近畿海事報道会議

JMETS